

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ハタハタ

学名 *Arctoscopus japonicus*

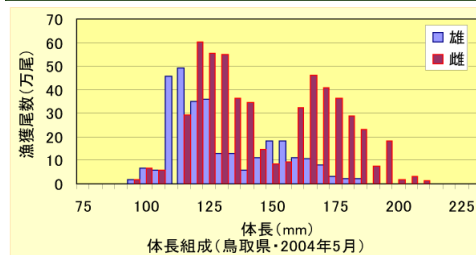
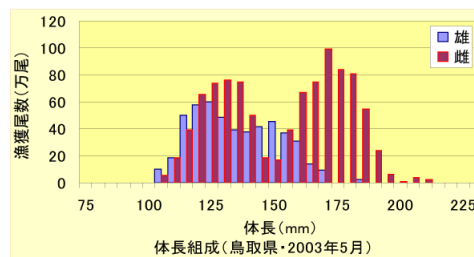
系群名 日本海西部系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 5歳
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 12月の極短い一時期、沿岸の藻場、西区にはまとまった産卵場がない
索餌期・索餌場: 未成魚期以降の分布と回遊に関する知見は少ない
食性: 端脚類、オキアミ類、魚類
捕食者: 大型魚類によって捕食されるが、詳細は不明

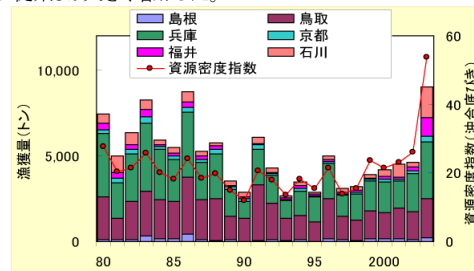
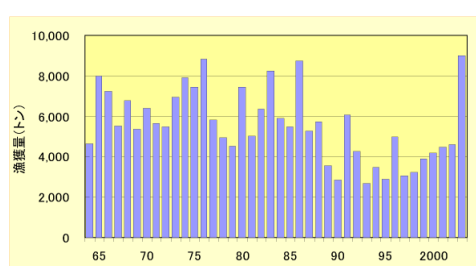


漁業の特徴

兵庫県以西では沖合底びき網、京都府以北では小型底びき網によって主に漁獲され、例年兵庫県と鳥取県の水揚げが多い。漁獲の中心は禁漁期前の4～5月、禁漁明けの9月で、11～12月の漁獲量は少ない。

漁獲の動向

当海域におけるハタハタの漁獲は、過去50年ほど5千トン前後の水準を維持してきた。1970年代後半は韓国及び日本海北部において漁獲量が激減したが、この海域ではハタハタの市場経済的な重要性が高まったものの漁獲が大きく減少することはなかった。1990年代中頃から漁獲量は漸増傾向に転じている。2003年の西部海域全体の漁獲量は9千トンを超え、特に石川県と福井県における漁獲量が従来より大きく増加した。



資源評価法

漁獲量の推移とともに、沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づく漁場別漁獲統計を解析し1980年以降の資源密度指数*の推移を調べた。加えて、鳥取、兵庫及び福井県における漁獲物の体長組成から、近年の加入状況、漁獲物の年齢構成を考察した。*資源密度指数:10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE(漁獲重量(kg)/ひき網回数)を一定期間(年または月)、ある海域内(中海区または小海区)で集計した値を有漁漁区数で除して求めた。

資源状態

日本海西部のハタハタ資源は、漁獲量及び資源密度指数の動向を見ると90年代初頭に比べやや高め水準にあると考えられる。2004年現在、豊度の高かった2001年生まれ群は資源全体から見ると小さな割合となっているが、2003年生まれ群と2004年生まれ群の資源豊度は高いレベルにあると予想されるので、2005年の来遊量は再び高水準になると予想される。しかし、2003年の漁獲状況には、能登半島～若狭湾の漁獲量が大きな部分を占めていたことや、韓国における漁獲が大幅に減少したことなど、これまでに見られなかった特徴が見られた。このような不安定要素を考慮に入れ、現在の資源状態を中位と判断した。

管理方策



日本海西部のハタハタ資源は、長期的には安定した状態にあったが、特に2001年生まれの卓越年級群が現れるなど近年は増大傾向にあると思われる。しかし、2003年には、能登半島～若狭湾の漁獲が急激に増加し、対照的に本資源の主たる産卵場があるとされる韓国側の漁獲量は大きく落ち込んだ。また、ハタハタは世代のサイクルが2～3年と短いことから、今後長期に渡って安定的な状態が持続するとは断定できない。漁獲努力を将来的にも増加させず、資源の動向を見極める必要がある。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	6,800トン	1.3Cave5-yr	-	-
ABCTarget	5,500トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 2003年には春先に能登半島側で、その後も山陰海域を中心に高水準の漁獲が続き、年間の総漁獲量が9千トンに達した
- 過去5年間については、漁獲量も資源密度指数も増加傾向
- 2001年生まれ群の豊度が高く、この年級に由来する2003年及び2004年生まれ群も高いレベルになると思われる

管理方策のまとめ

- 漁獲圧を高めることなく、資源状態を維持する
- 1990年代後半からの資源の漸増傾向をもとに2004年の資源量指数の増加を予測し、これを過去5年間の平均漁獲量にあてはめてABClimitを算定

資源評価は毎年更新されます。